



国登録文化財になっているのは、玄関棟、広間棟、門である。このうち玄関棟、広間棟は、大正14年に庭園と同時に造られた。門そのものは、明治中期に作られたものであるが、別の場所から移築されてきたものと考えられている。

門は、表玄関として街道に面し、大規模で特に梁間が大きく格天井を持つ貴重なものである。

建設当初、玄関棟、広間棟は、細長い敷地を上手に使い、玄関を軸に、東側の接客空間と西側の居住空間に分けられる。玄関近くに洋間を付けるのは、大正時代の上級の住宅形式を示している。

接客空間は、広間棟の広間(15畳)と客室8番(8畳)、玄関棟の客室3番(13.5畳)で、各部屋に伝統的な床・棚・書院を構え、近代木造建築の細部意匠を表現し、優れた建築技術を読み取ることができる。

広間からは中庭と奥庭を、客室8番からは中庭と前庭を、客室3番からは前庭を眺めることができる。

庭という外部空間と室内の内部空間が見事に調和し、庭師と大工の協働による高級建造物である。

小郡町家に残された豪商の優れた住宅として、高く評価され、令和3年3月、国登録有形文化財(建造物)として登録された。

題字は先代当主
有岡寅雄

料亭 さとう別荘



さとう別荘の住所

〒838-0106 福岡県小郡市小郡1281

◆電話 0942-72-3057 FAX 0942-72-3179

◆電車では、西鉄小郡駅から徒歩10分

◆車では、鳥栖インターチェンジから5分

◆ネット検索は、<http://satou-bessou.com/index.html>

国登録有形文化財(建造物)



さとう別荘の建物は、食に代表される、小郡町家の産業文化を象徴する建物として継承されている。

秋の終わりから冬にかけて、有明海には多くのカモが飛来する。夜間、カモはエサを求めて内陸に移動する。

その移動先として有名なのが小郡である。ため池が多いことと、筑紫平野の最北部にあって、北側は脊振山地と三郡山地に阻まれているので、カモの飛来地として適している。

小郡には、カモを傷つけずに捕獲する無双網猟と呼ばれる伝統的な捕獲方法がある。その狩猟法が今でも受け継がれている。そして、小郡では、カモ料理が郷土料理になった。

今では、カモは高級な食材となっており、それを出す料亭は、市内ではさとう別荘1軒になったが、かつては市内に4軒ほどの店があった。

このさとう別荘は、今でも小郡の食文化を受け継ぐ料亭でもある。そうした客を食でもてなす営みが、さとう別荘の建物や庭をいつでもきれいに清掃され、修繕されて、今日まで維持されてきたことにつながっている。

この建物と庭を作った笹淵氏は、大正時代に朝鮮にわたり、そこで蚕を飼い、繭を作って財産をなした。このパンフレットの背景文様は、繭からできる生糸(絹)、それを編んでできる絹織物の代表的文様である、紗綾(さや)型をモチーフにしたものである。

さとう別荘

—建物と庭園の魅力—



料亭さとう別荘は、江戸時代から続く小郡町の中ほどにあり、江戸時代には長崎・肥前と英彦山・日田を結ぶ彦山道だった現国道 500 号に面している。

料亭さとう別荘の建物は、江戸時代の庄屋池内家が代々所有した土地の一部を、笹淵外平氏が、大正 10 年に購入し、大正 14 年にその住まいとして建てたものである。

昭和 27 年に、のちに小郡商工会の初代会長となる佐藤己三雄（みさお）氏が、土地・建物を購入し、ここで料亭「佐藤別荘」の営業を始めた。これが、「さとう別荘」の始まりである。

当初は、「佐藤別荘」と漢字で表されていたが、途中で柔らかい感じの「さとう別荘」と平仮名の表記に変え、今に受け継がれている。

さとう別荘は、小郡の名物料理であるカモ料理を提供する店として、地域の人たちだけでなく、全国からこのカモ料理を食べに来られるが、そうした大切な客人をもてなすのが、料理とともに、歴史を経た風格のある建物や庭園である。



▲ 洋間（元は当主の書斎）



▲ 洋間の壁の漆喰レリーフ



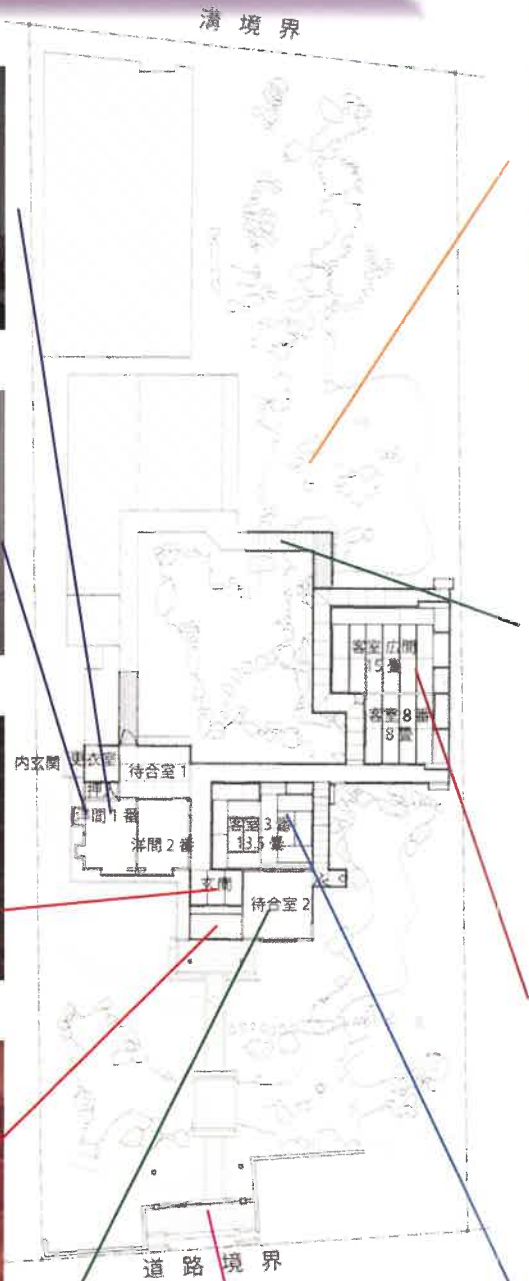
▲ 玄関とさとう別荘



▲ 玄関天井の格天井
（よく見ると色の違いや節目がちどりに組まれている）



▲ 待合室天井の電灯と天井



▲ 庭園

庭園は、大正 14 年に建物と同時に作られた。作庭は鳥栖市姫方の故松尾仙六であることがわかっている。

滝がある北側の奥庭から流水し、池はいったん太鼓橋で区切られ中庭に入り、建物の東を抜けて前庭につながり、大石で組まれた滝もある。



▲ 太鼓橋



▲ 客室広間 15 畳の床の間



▲ 客室3番の床の間

天井裏にあった棟札。建物が建てられた日を書いている。左が玄関棟で「大正 14 年 2 月 23 日」、右が広間棟で「大正 14 年 2 月 27 日」。わずかに、4 日の違いなのに、棟札が 2 つあるのはどうしてか。まだ分からないことが多い。



▲ 正門

<p>笹淵卯平建立 大正十四年二月廿三日 上棟</p> <p>監督 笹淵卯平 棟梁 田中代吉 代目 井上次郎 伊藤大次郎</p>	<p>笹淵卯平建立 大正十四年二月廿七日 上棟</p> <p>監督 吉浦勇平 棟梁 江上善太郎 代目 野野健太郎 伊藤大次郎</p>
<p>大工 田中 和吉 伊藤 大次郎 吉田 常次郎 島田 常次郎 佐藤 良太郎</p>	<p>大工 高木 卯平 島田 善太郎 東原 倉太郎 重松 政雄</p>